

茨曾根小C・S通信

R3第4回学校運営協議会報告



2022.2.18 たけのこルームにて

【次第】

- | | |
|-------------|-------|
| 1 後期学校評価 | 海老名教務 |
| 2 パートナシップ事業 | 田巻教頭 |
| 3 次年度学校運営 | 平山校長 |
| 4 情報・その他 | |
| 白南地域公共施設再編案 | 細河委員 |
| 5 閉会挨拶 | 丸山副会長 |



R4重点目標:進んで挑戦するたくましさの育成

オンライン参加も含め10名の委員と次年度委員候補者2名のオブザーバー参加を得て、90分間にわたる熱心な協議が行われました。

結果、令和4年度の学校教育ビジョンが承認されました。ここでは、3つの点からその概要をお知らせします。学校日より2月10日号と合わせてご覧いただけると幸いです。

1 後期学校評価への意見

◆発信力

たより、ホームページ、応援団だよりの充実により、学校の様子や子どもたちの学びの様子がよく伝わってきた。

◆特別支援学級新設

地域の願いが叶い、安心して子供たちを送り出せている。

◆自己肯定感の育成

地域でゴミ拾いを続ける児童がいる。そうした善行を取り上げ讃えていきたい。

◆児童アンケート

「自分にはよいところがあります」への肯定的評価数値が市の平均値を超えたことを喜ぶたい。併せて、この設問に「あてはまる」と即答できない子、迷いを感じる子、「あてはまらな

い」と答える子が少なからずいるということも考え続けていきたい。

2 パートナシップ事業への意見

◆コロナ禍を乗り越えて

中止を余儀なくされた活動もあったが、学校行事支援、地域の宝にふれる体験活動、芝生の管理などが進められた。地域教育コーディネーターを中心とした「茨曾根応援団」の働きに敬意を払い、感謝したい。

◆芝生のある学校

長年にわたるボランティアの多大な貢献により維持されている。有効活用を進め、住民・保護者の芝生への愛着と維持管理への貢献意欲を一層高めていきたい。

3 学校教育ビジョンの主な改善点

◆重点目標

子どもたちの実態を分析した結果、自己肯定感は高まってきたが、苦手を克服しようとする精神面が弱いということから、「進んで挑戦す

るたくましさの育成」と設定した。

◆地域と学校の『協働』目標

コミュニティ茨曾根子ども部会作成のリーフレットの表題を受け「みんなで育もう自己肯定感」と設定した。

◆特別支援教育の『充実』

「よつば学級」での支援が順調に成果を上げている。今後は、通常学級で困り感をもつ子どもたちにも特別支援教育の視点から『合理的配慮』を行うことが重要であると考え充実と表記した。

合理的配慮：一人一人の特徴や場面に応じて発生する障害・困難さを取り除くための、個別の調整や変更のこと

